令和３年度第６回　長野市上下水道事業経営審議会　議事要旨

日時：令和４年２月18日(金) 14:00～15:30
会場：第二庁舎10階　講堂

１　開　会

２　会長あいさつ

３　報告
七二会地区で発生した水道管の破裂事故と対応について
〇事務局から説明

４　議　事
(1) 長野市水道事業経営戦略（案）の市民意見(パブリックコメント）結果報告及び最終案について
〇事務局から説明
〇質疑応答・意見
〔委　員〕
「委託した場合と、そうでない場合の労務費をそれぞれ示してほしい。また、材料費、人件費、経費を示してほしい。」という意見の趣旨は、委託した場合としていない場合の費用を比較した結果を示して欲しいという意味だと解釈しているが、これに対する事務局の回答は「財政シミュレーションを行っております。」とあり、食い違っている印象を受ける。
〔事務局〕
経営戦略の中に細かい数値を回答に組み込むのは困難であるため、それらも考慮、検討しながら委託しているという回答にしている。
〔委　員〕
シミュレーションの結果、費用が何パーセント削減できると見積もっている等、一言あればわかりやすいのではないか。
〔事務局〕
直営の場合と委託の場合の比較は行っているが、計画上の数値について、すべて比較するのは困難である。
〔委　員〕
提示するのが困難であれば仕方ないが、今回の回答としては、ひとつひとつのデータについて開示はできないが、比較を行っている等の説明があるとよいのではないか。
〔事務局〕
「今回の計画において、すべての数値を細かく比較、検証はしていないが、委託する際は数値について比較したうえで行っている。」という趣旨の回答に変えさせていただく。
〔委　員〕
広域化について、水道施設台帳の整備を進めているということだが、どのような意味か。
〔事務局〕
長野市を含め多くの自治体では既に台帳を作成しているが、現在、県内で様式を統一しようという動きがあり、準備を進めている。
〔委　員〕
資料 32 頁(2) 財源についての検討状況等について、「今後資産維持費として必要な利益が確保できないなど安定的な事業運営が見込めない場合」という文言があるが、水道事業には利益という表現は馴染まないのではないか。

〔事務局〕

水道事業において、利益を出す意味合いは将来の投資にある。ある程度利益が出なければ資金が枯渇してしまうため、このような表現を使っている。

(2) 下水道事業の概要及び下水道処理場の耐水化について

○事務局から説明

○質疑応答・意見

〔委　員〕

大掛かりな対策をしている印象を受けるが、現在、温暖化が進んでいて地球規模で温度等が上がっていくと言われている。100 年確率で計画しているのはどのような経緯か。

〔事務局〕

国土交通省から出されている下水道施設浸水対策の推進に関する通知では、下水道施設の耐水化における目標浸水深は、中高頻度の確率年（30 年から 80 年程度）を想定している。基準を満たす目標として、国交省千曲川河川事務所が算出した 100 年確率を使用している。

〔委　員〕

県営水道の地域でも下水道は長野市の下水道管等を利用しているが、下水に関する負担はどのように会計処理をしているのか。

〔事務局〕

長野市は県の下水終末処理施設も利用していて、その費用は負担している。下水道は長野市全体で一つの事業体のため、下水道事業会計で全体の使用料を収入している。

〔委　員〕

広域化を検討している地域には、県営水道の地域も含まれているのか。

〔事務局〕

現在、県営水道地域も含め、上田市、千曲市、県企業局、長野市で検討を行っている。

(3) その他

次回審議会日程について事務局から説明

５　閉　会